

## 「近隣の自然の変化に目を向ける No.13

### アジサイ(紫陽花)祭り Hydrangea Festival」

2020年6月12日

6月に入り、周囲はアジサイ（紫陽花、八仙花、*Hydrangea macrophylla*）が花盛り。そこで今回は、満を持してアジサイにフォーカスする。

誰もが知っている「あじさい」とは、一体どんな意味があるのだろうか？調べてみた。「藍色が集まったもの」=あづさい（集真藍）。「あづ」は小さいものの集まり、「さい」は「さあい=真藍」とあった。紫陽花は当て字であった。なお、英語名の“hydro”=水、“angeion”=器である。そこで、梅雨にふさわしい花と考えるのは日本人で、シーボルトが紹介した欧州には雨期がないので早とちりしないように注意しよう。

アジサイの原種は日本産のガクアジサイと言う。ちょっとビックリ。ノリウツギのようなヤマアジサイが交配されて多種多様な園芸種のアジサイが生まれ、今も量産されている。最近のヒット品種が、シチダンカ(七段花)であるとNHKの番組で知った。私が初めて見たアジサイだったので納得。

今年見たいろいろな紫陽花（色違い、ガクアジサイ）を並べて見た。お好みのアジサイはどれですか？カップを伏せた花が重なり集まって咲いている様が見慣れたアジサイだが、最近是新種の新種が増えているようだ。芦花公園にも新種で愉快的な名のアジサイが通路沿いに植えられている。“春よ恋” “エンドレスサマー” “ありがとう” “富士の湧水” などなど。

[http://sengawacx.com/LookNatureN013a\\_2020.jpg](http://sengawacx.com/LookNatureN013a_2020.jpg)

[http://sengawacx.com/LookNatureN013b\\_2020.jpg](http://sengawacx.com/LookNatureN013b_2020.jpg)